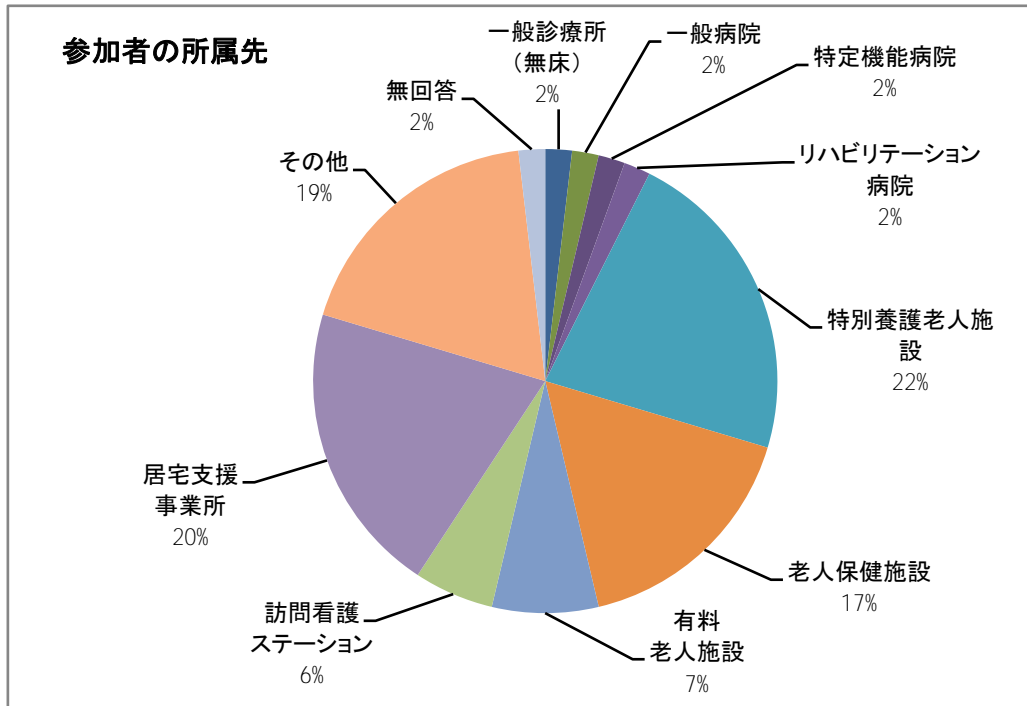


# 第1回横浜北地区PDNセミナー・アンケート結果

平成20年9月28日  
(サンプル数54)

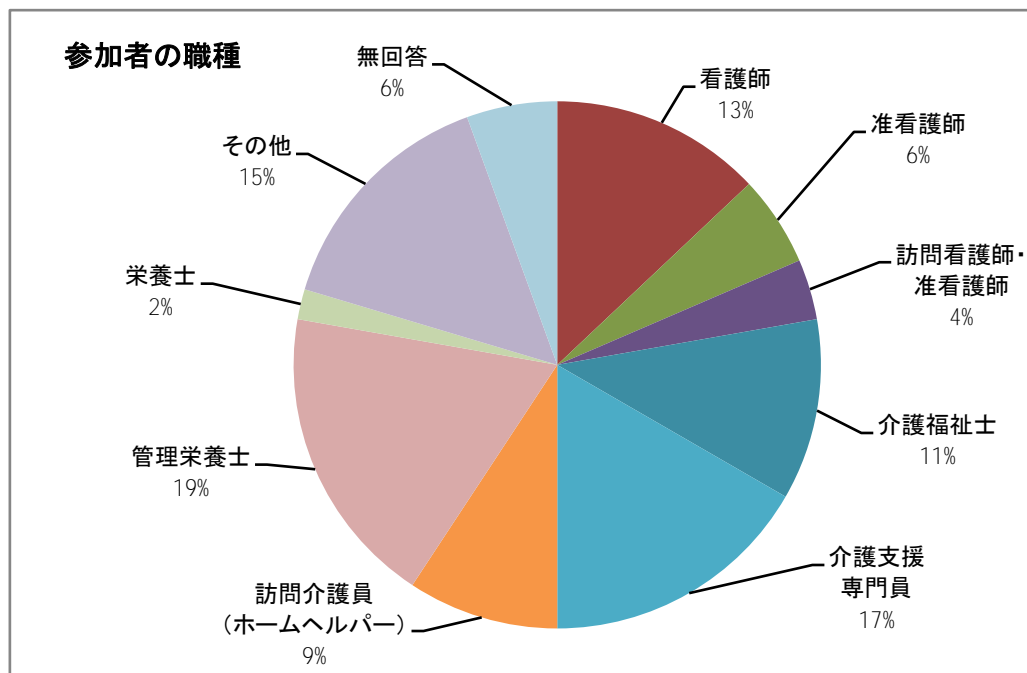
## I. 参加者のプロフィール

### ■参加者の所属先



その他: 歯科大学付属病院、介護施設、通所介護施設、フリーで老健と訪問ナースの指導、デイサービス、胃ろうの家族、医療福祉のためのソフト開発会社 N=54

### ■参加者の職種



その他: 歯科医師、ヘルスのCW、施設とドクターを繋げる仕事、患者・家族、マーケティングリーダー N=54

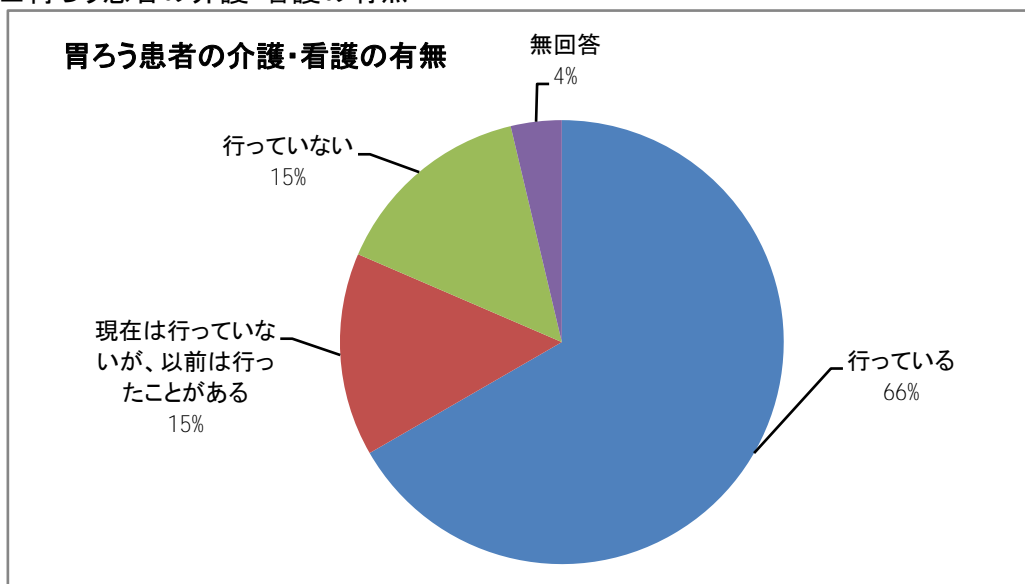
■所属先の所在地

N=54

市、郡	横浜市	川崎市	相模原市	八王子市
人数	38	7	1	1
%	70%	13%	2%	2%

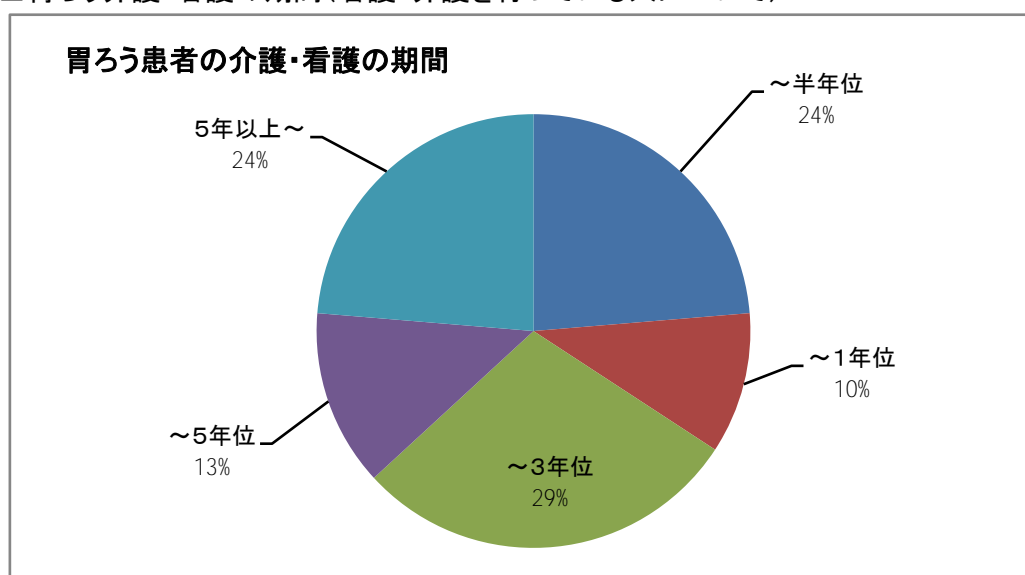
大和市	東京23区	東京都	無回答	合計
1	2	1	3	54
2%	4%	2%	6%	100%

■胃ろう患者の介護・看護の有無



N=54

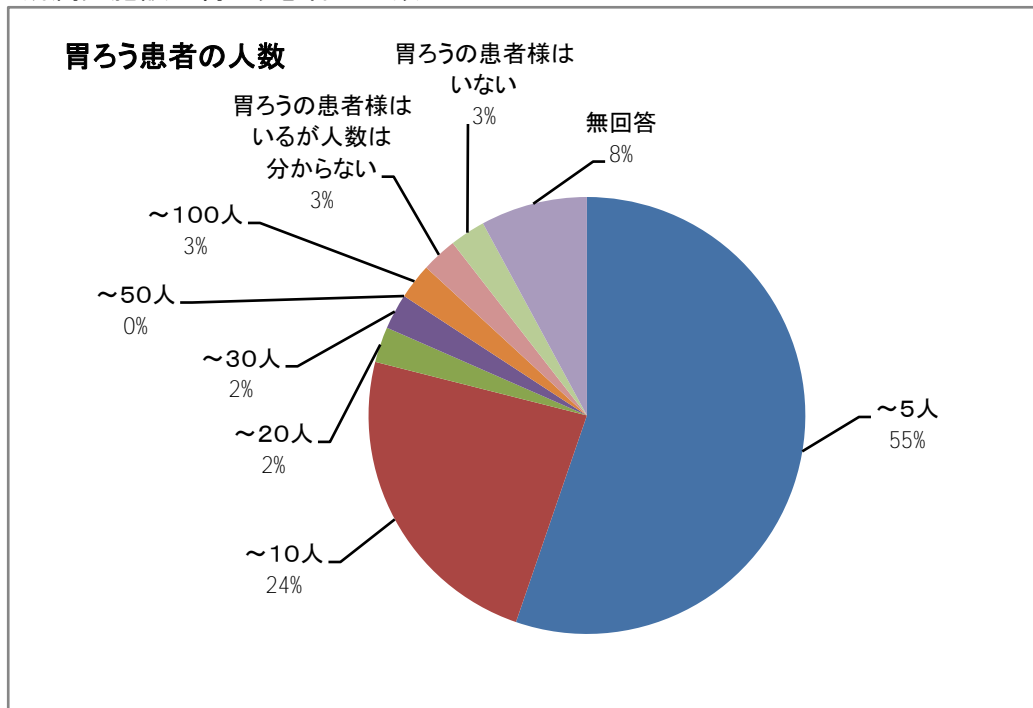
■胃ろう介護・看護の期間(看護・介護を行っている人について)



N=38

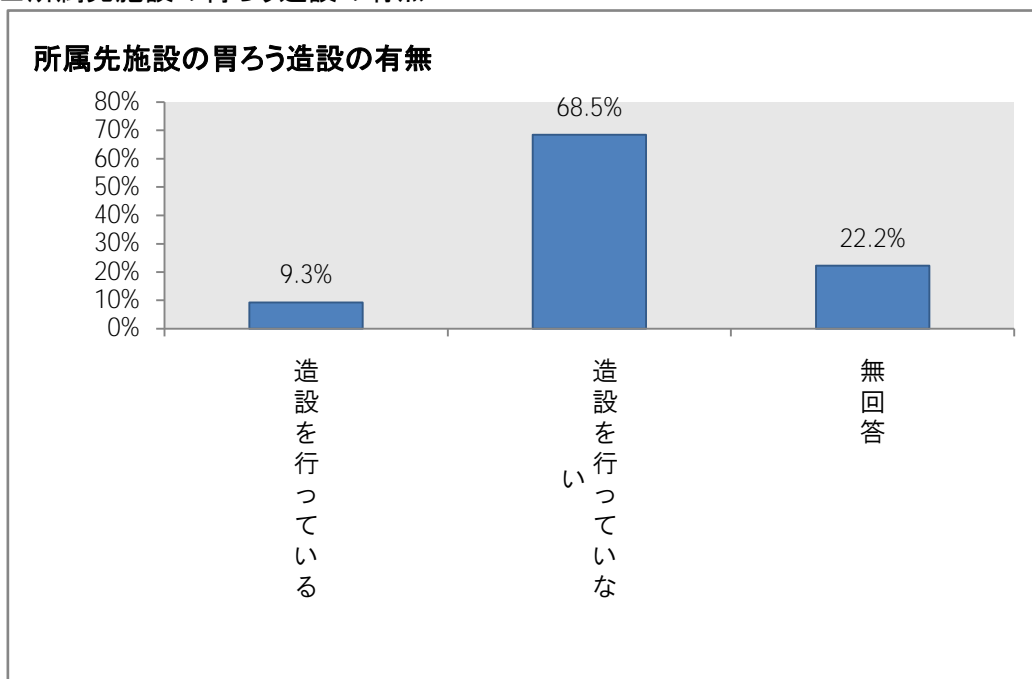
II. 所属先施設の胃ろうの現状

■ 所属先施設の胃ろう患者の人数



N=54

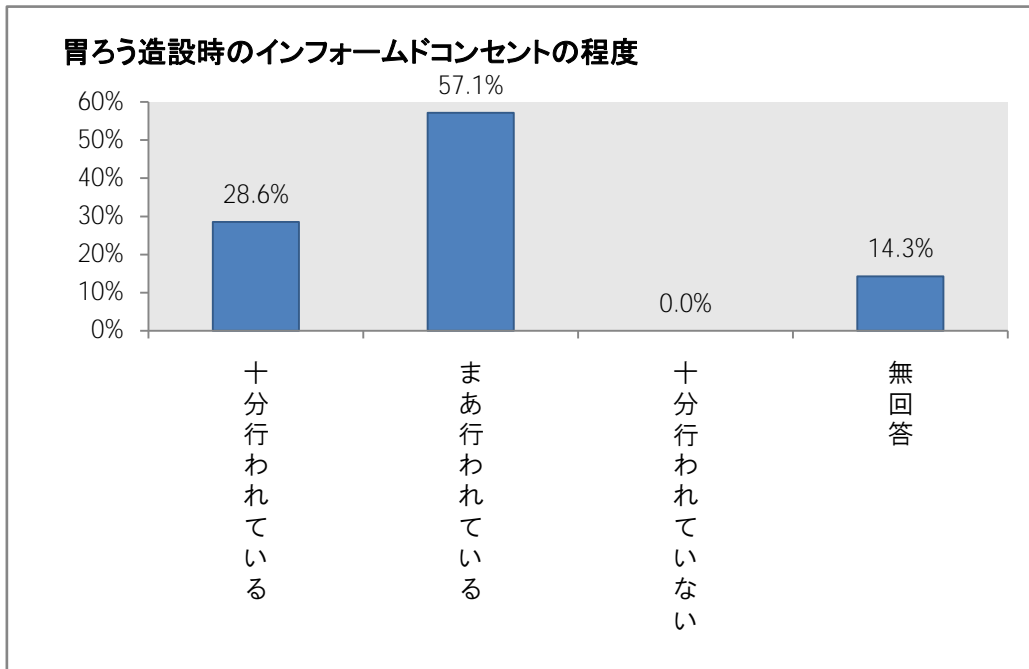
■ 所属先施設の胃ろう造設の有無



N=54

■ 胃ろう造設時のインフォームドコンセントの程度

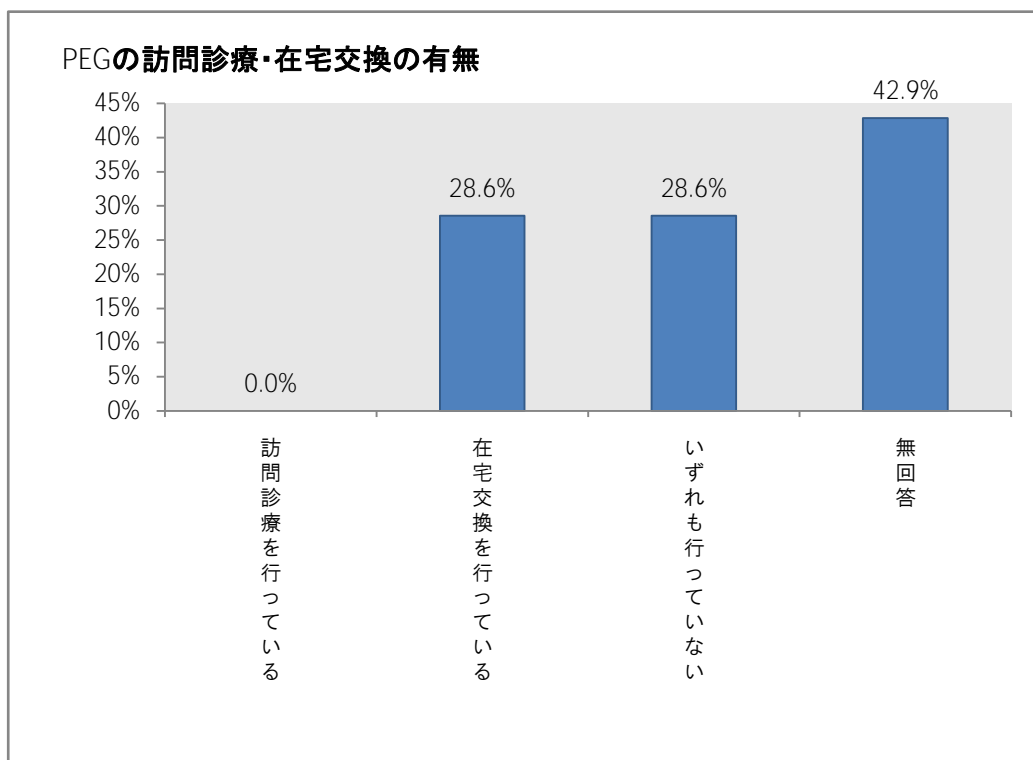
(所属先が胃ろうの造設を行っている参加者について)



N=7

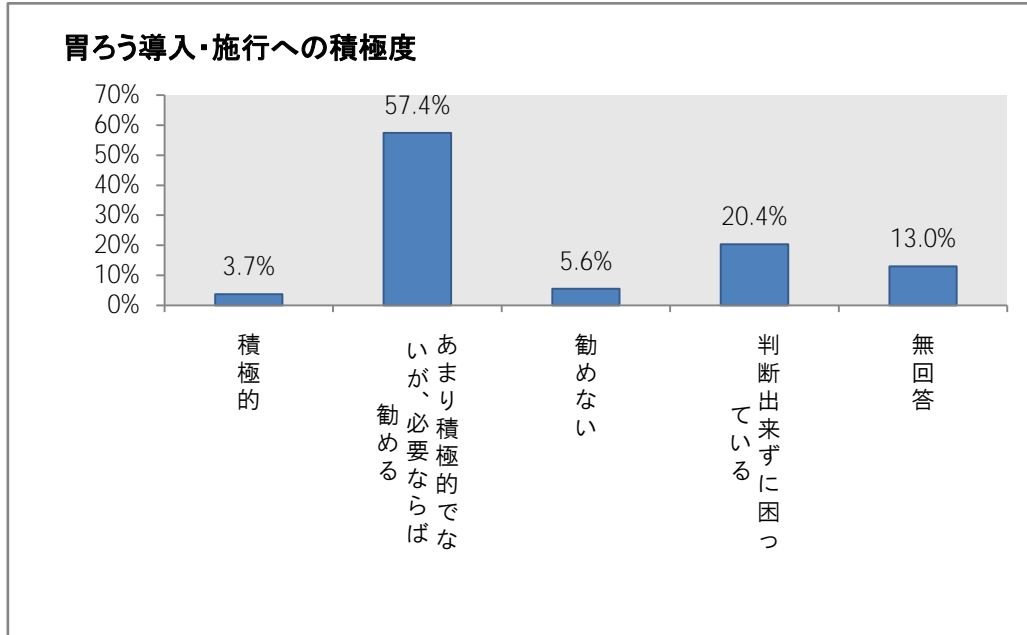
■ 所属先施設の胃ろうの訪問診療・在宅交換の有無

(所属先が胃ろうの造設を行っている参加者について)



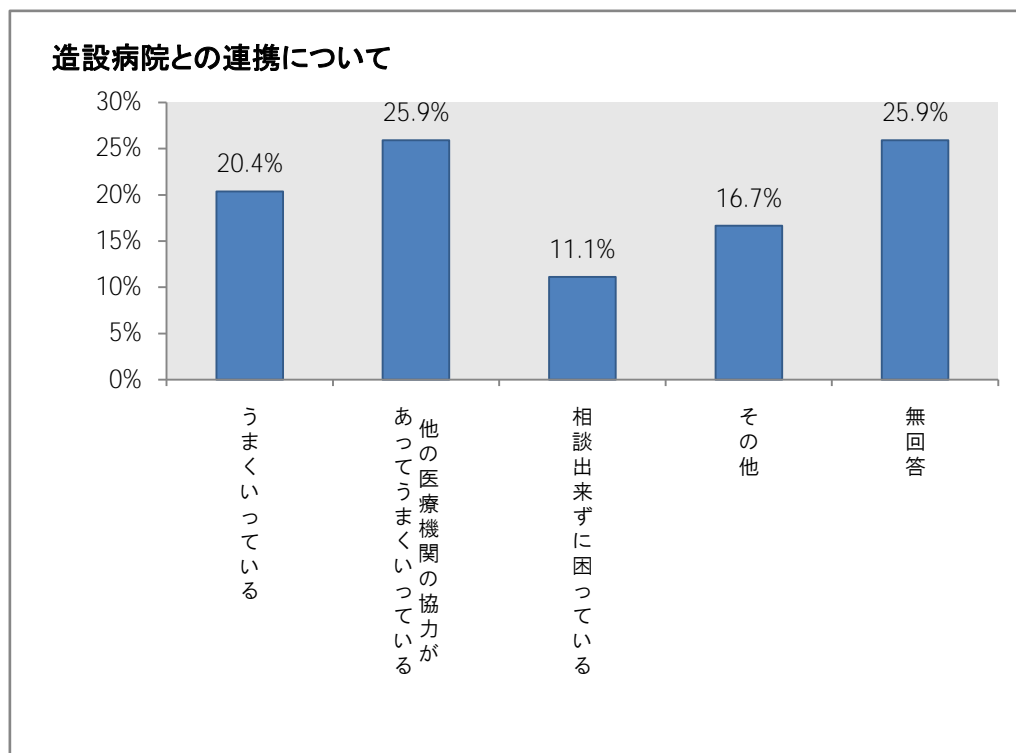
N=7

■ 所属先施設の胃ろう導入・施行への積極度



N=54

■ 造設した病院との連携はうまくいっていると感じますか？

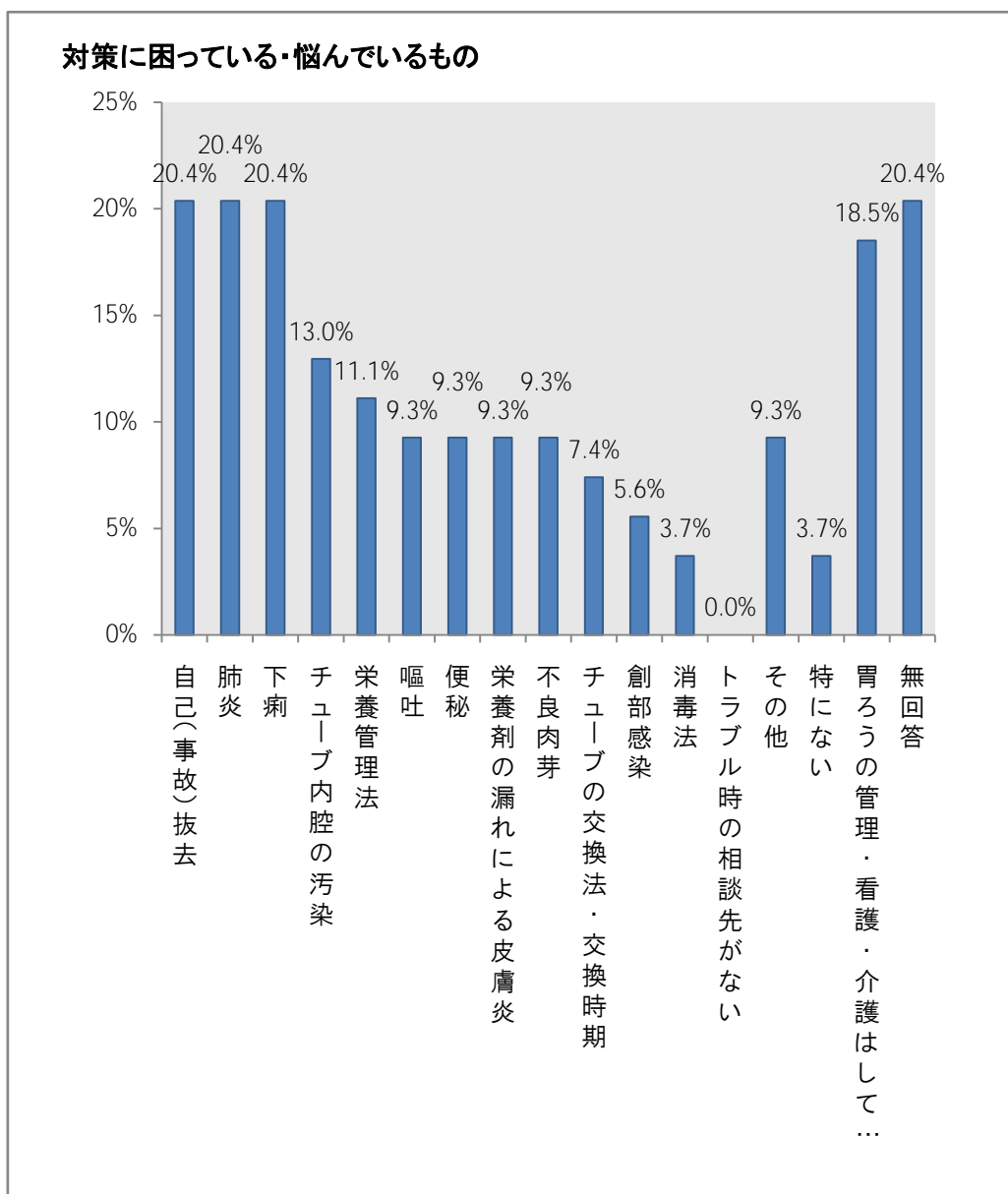


N=54

**その他:** ナースが主体である為不明。  
 訪問看護との連携はできている。  
 訪問診療にしたためご家族に精神的不安の軽減になっている。  
 栄養剤の選択に関してドクター、ナースの管理栄養士に対する理解が低く、関わりはこちらからのアピールがないと病院としては動かない。  
 これから何とかしようとしている。  
 現在、胃ろう造設している人は造設した病院とうまくいっているが今後、受け入れる人に対しての連携の保証や緊急時の胃ろう対応に対しては課題となると思う。

### Ⅲ. 胃ろうの管理・看護・介護の中で、対策に困っている・悩んでいるもの(複数回答可)

#### ■ 対策に困っている・悩んでいるもの



N=54

その他: 経済面。

逆流。

家族の理解が難しい。

ショートステイが取りにくい。受け入れが少ない。

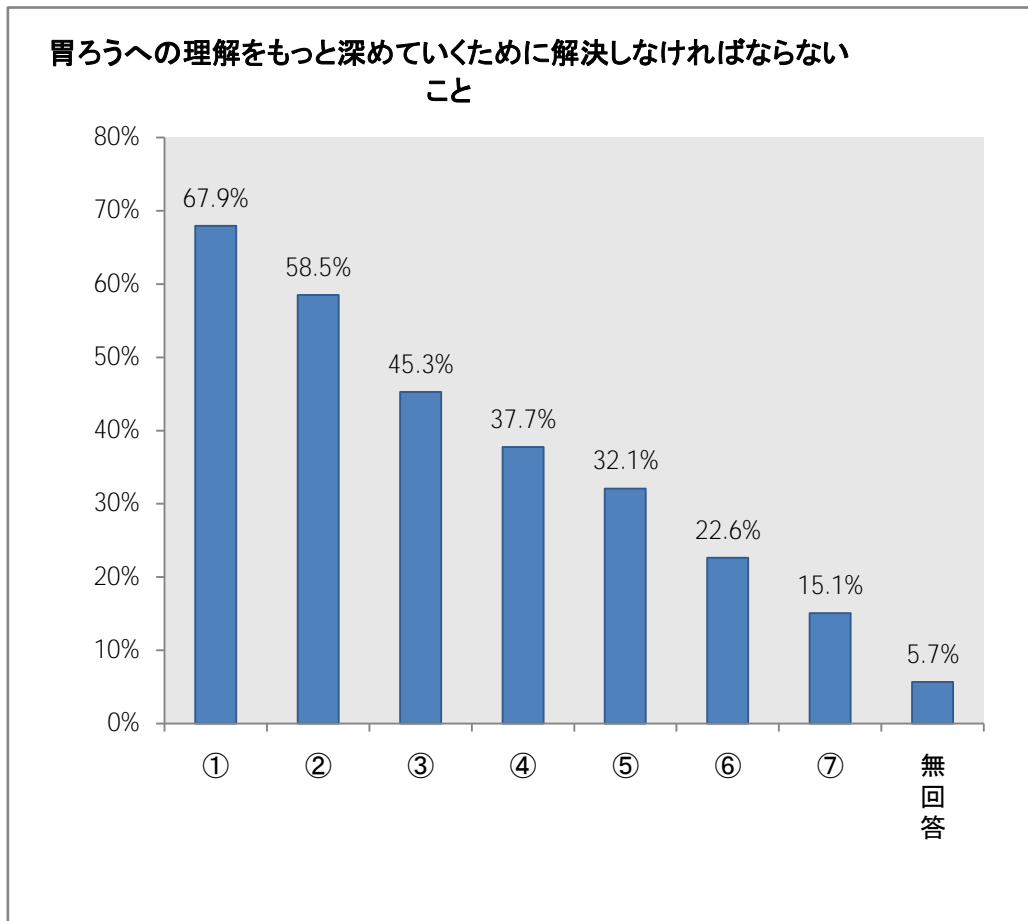
チューブが皮膚に食い込んで炎症ということもありました。

必要な栄養量はお示しするがドクターの方が必要ないと600~900kcalの指示しか出していない。NaClの添加も必要ないとされる。

IV. 胃ろうへの理解をもっと深めていくために解決しなければならないこと

(複数回答可)

■ 胃ろうへの理解をもっと深めていくために解決しなければならないこと



N=54

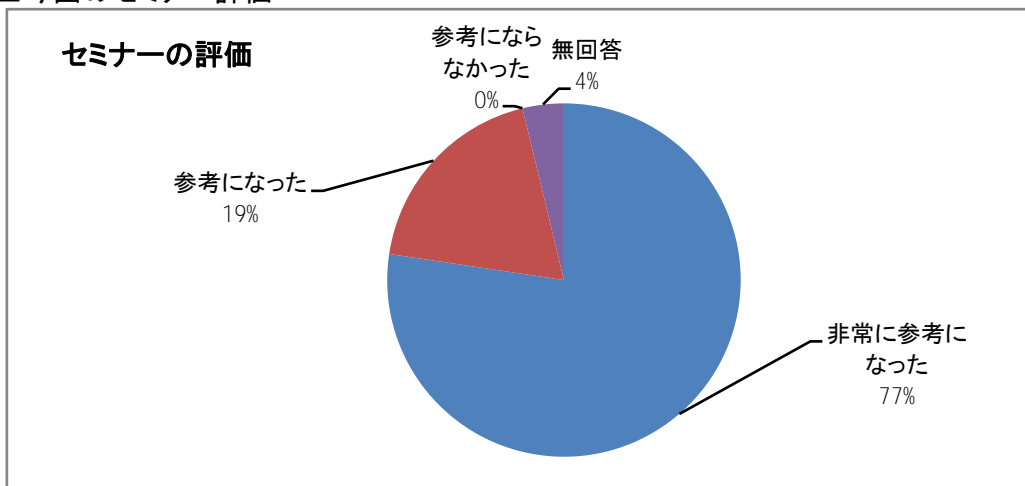
①	胃ろうについての勉強会の充実。(胃ろうの栄養・嚥下についての知識の向上、NSTや在宅管理についての勉強会など)	67.9%
②	食べられなくなれば即胃ろうというのではなく、胃ろう本来の「役割」をいま一度考え直してみること。	58.5%
③	造設、管理、看護、介護の全般にわたる院内連携や地域連携の確立。	45.3%
④	一般の人々や病院関係者に正しい理解を持ってもらうためのPR活動の充実	37.7%
⑤	胃ろうの適応、危険度を示す疾患・状態別のガイドラインの作成。	32.1%
⑥	専門医や専門看護師の育成。(造設医の資格化、トラブルに対応できる専門機関の設立、コメディカルの育成など)	22.6%
⑦	胃ろうの手技・管理の標準化。(手技の安全かつ確実な施行、合併症の発生予防、発生後の対処方法、術後ケアなどの標準化)	15.1%

無回答

5.7%

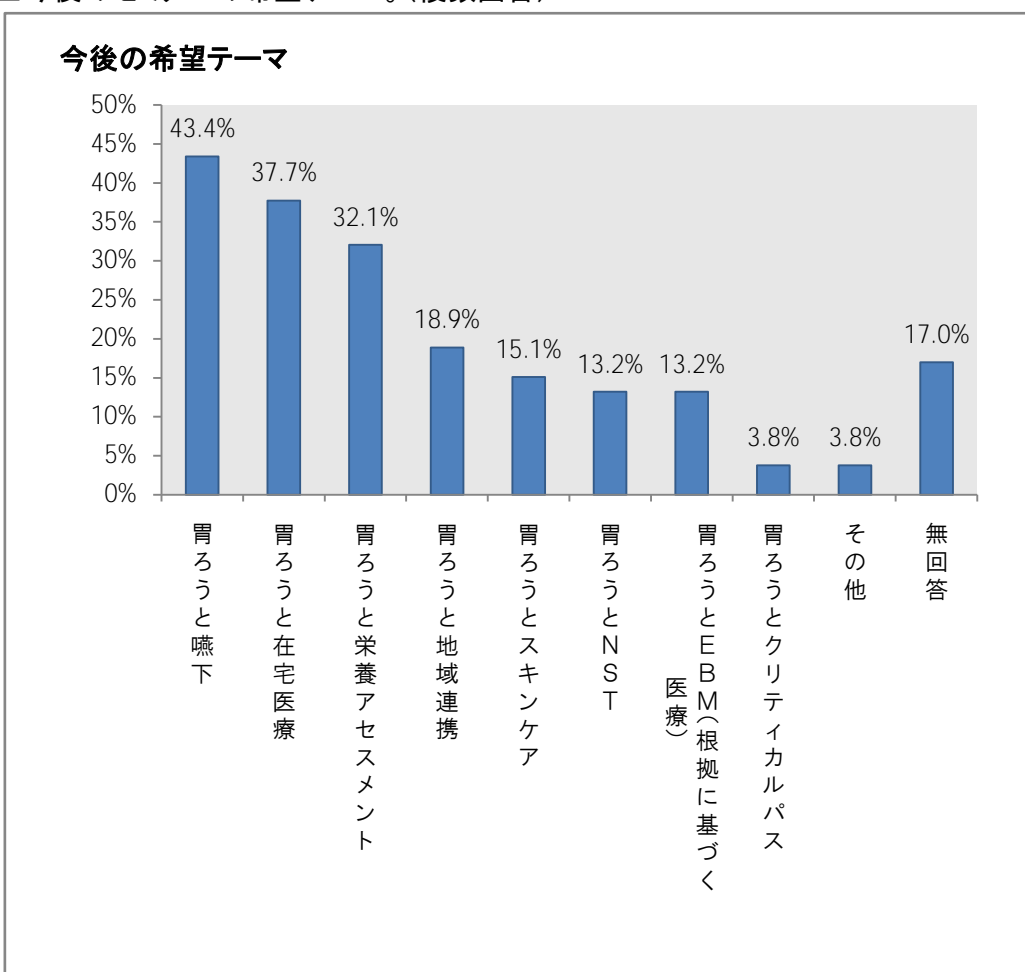
V. 今回のセミナーの評価と、今後のセミナーの希望テーマ

■ 今回のセミナー評価



N=54

■ 今後のセミナーの希望テーマ。(複数回答)



N=54

その他: 低Na症について



## VI. 自由回答意見

問. 胃ろうの普及やPDNセミナーについて、どのようなことでも結構です。  
忌憚のないご意見をお聞かせください。

- ・大変勉強になり有意義な半日でした。ありがとうございました。もっと多くの人にこのセミナーを知って欲しいと感じました。
- ・一般患者家族に対してこのようなセミナーがあることが周知されていない。病院から患者家族に知らせてほしいと思う。
- ・明日からの自分の考え方について、即、役に立ちます。
- ・セミナーを多くして頂きたい。勉強会を都合できる限り開いてほしい。
- ・胃ろうの管理を行う専門職に向けての勉強会。
- ・最近、新聞の医療面に胃ろう造設は延命治療ではないかという記事が多く掲載されています。携わっている現場としては矛盾を感じています。今までPEG研修に参加しましたが、今回は現場、色々な思いが伝わってきました。良かったです。入院中、今のままでは施設に戻れない、胃ろう造設することで施設に戻れるというDrからの話を聞いたが施設側はどうでしょう？と問われます。施設としては胃ろうは受け入れ出来るとお伝えしますが、食べれなくとも経口出来る物でつないでいける方法、看取りの段階まで詰めなくてはいいけませんので早い段階から家族とのカンファレンスが必要となります。
- ・高齢者の自己選択に基づかない胃ろうの造設にかねがね疑問を感じていました。“生きる”意味をご家族がもう少し考える場が必要と感じています。
- ・胃ろうの方を在宅ヘルプしています。半年経ち体重が増え移乗・移動に苦労している。ご本人の口から水分補給・ヨーグルトを摂取しているがそれしか食べさせてもらえないと訴えます。ベットの中で右へ左へと動かされ手足にアザを作っています。本人にとって何が良かったか・・・と思っています。
- ・南区近辺でもこの様な勉強会を持っていたらと思います。本日はありがとうございました。
- ・管理栄養士もPEG管理・注入の扱いができるよう早急に資格制度が必要だと感じています。胃ろうが開発される前は「死」というものが早かった。看取りの考え、QOL、幸せ等家族との充分な話、説明が必要と感じました。PEGを作って不幸になって欲しくはない。
- ・写真や動画があり、教科書だけでは分からないことが理解でき、とてもわかりやすい勉強会でした。
- ・初めての参加でしたが、分り易く大変考える上での知識となりました。
- ・担当している方が胃ろうのOPをして自宅に戻れ、これからと思い参加させて頂きましたが、入所の方向(ご家族の希望)です。今日の研修、私にとってとてもタイムリーで勉強になりました。
- ・お話がとてもわかり易く、参考になりました。ありがとうございました。特に在宅で仕事をしていると胃ろうに対して否定的になっていましたので先生の最後のお話で「造設して良かった」という部分に(関係している仕事をしているので)否定するばかりでなく、「やることあるだろう～」と目が覚めた思いでした。
- ・地域の老健、特養施設などでショートステイ入所など一施設3～5人程度の受け入れしかなかない。もう少し理解が深まれば患者家族から施設選びがしやすくなると思う。
- ・ヘルパーが管理についてもっと関われるようになるべきだと思います。ご家族の負担が大き過ぎます。
- ・とても勉強になりました。ソフトを作る側として全く胃ろうについて無知であったことを恥ずかしく思います。胃ろうを取り巻くケアは栄養剤の注入だけではなく、交換や洗浄と多岐にわたり、現場のための管理ソフトを作ることで少しでも胃ろう管理の手助けが出来る様、努力したいと思います。ありがとうございました。